

Namie Town Profile

浪江町は、福島県最東端「東経141° 2' 49"」に位置しており、東は太平洋、西は阿武隈山系の稜線まで延びています。面積は223.10km²で双葉郡総面積の4分の1を占めています。

町の北部を流れる請戸川、南部を流れる高瀬川は河口近くで合流し、請戸川となって太平洋に注いでいます。

南北には、JR常磐線と国道6号が平行して走っており、この6号を基点として県都福島市に通じる国道114号が町を東西に横断しています。

気候は東日本型海洋性で年間平均気温12.5℃と温暖です。

The History of Namie

浪江町は、むかし陸奥国の一部染羽国でしたが、和銅奥州藤原氏の母方の親類といわれる海東小太郎成衡が磐城国に勢力を張り、その四男標葉隆義が標葉郷を領しました。

その後、二百数十年間勢力を保ちましたが、明応元年（1492年）より相馬領となり、明治維新に至りました。

明治22年、町村制施行により、浪江村・請戸村・幾世橋村・大堀村・苺野村・津島村の6か村が誕生。さらに明治33年に浪江村は浪江町となりました。

昭和28年、町村合併促進法により、浪江町は10月10日をもって請戸村・幾世橋村と合併、次いで昭和31年5月1日をもって大堀村・苺野村・津島村と合併し、今日に至っています。

平成8年11月には、21世紀における町のさらなる発展と町民サービスのより一層の向上を図るため役場庁舎を新築しました。

また、町では未来の町づくりとして、常磐自動車道の延伸に伴う国道114号拡幅改良など幹線道路網の基盤整備をはじめ、電源開発との共生による産学官構想（企業・大学・研究機関の誘致）、請戸漁港を機軸にした、活魚直売施設の新設、更には（仮称）健康科学プラザなど新たな町づくりを目指すとともに、豊かな自然と調和した自立的な地域づくりを計画しています。